安来市比田（ひだ）・東比田（ひがしひだ）地区

比田を愛し行動し誇りに思える地域に 今日も明日もずっとえーひだ

2地区連携 5年計画で 取り組み中!

年々進む人口減少と高齢化により感じた「このままでは比田がなくなる」という危機感をきっかけに、比田地区と東比田地区で連携した取組が始まりました。様々な世代の思いを詰め込んだ比田地域ビジョンの実現に向けて、住民が立ち上げたえーひだカンパニーを中心に活動しています。今日も、明日も、10年後も「えーひだ」(良い比田、良い日だ)と実感できる地域を目指しています。

Background これまでの地区のあゆみ

H27.6月
「いきいき比田の里活性化プロジェクト」を開始
比田の将来目指すべき姿を住民一体で考える地域ビジョンづくりに取り組む

▶

H28.3月
「比田地域ビジョン」を作成
1469個のアイデアをもとに88の戦略プランからなる地域ビジョンを作成

▼

H28.8月
「えーひだカンパニー」を設立
ビジョンの実践団体として「えーひだカンパニー」を設立
H29.3月には株式会社として法人化

◀

H30.9月
東比田地区を中心に自治会輸送を開始
えーひだ交通運営協議会が運営
H31.2月に有償運送化

▼

H31.2月
東比田地区で高齢者の居場所づくりなどを開始
えーひだ逢♡愛（あいあいかい）会が運営

▶

R元.12月
「比田地区小さな拠点づくり推進協議会」を設立
推進体制を強化するため比田地域内の関係団体による協議会を設立

▶

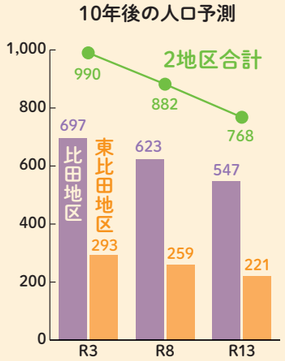
R3.4月
有償運送を比田地域全域に拡大
えーひだ交通運営協議会が運営

Data

比田地区（西比田・梶福留）	人口	697人（高齢化率 50.2%）
東比田地区	人口	293人（高齢化率 60.4%）

○ 地域の特徴

- 安来市の最南部に位置し、市中心部から車で約40分。鳥取県日南町と隣接
- 比田地区を縦断する国道432号沿いに学校や買い物施設、ガソリンスタンドなどの施設が集まり、東比田地区には比田温泉がある



※しまねの郷づくり応援サイトから引用

● 市役所・支所 ● 公民館等 ● 教育機関等 ● 医療機関 ● 買い物施設 ● ガソリンスタンド

Step 小さな拠点づくりのステップ

step.1 課題

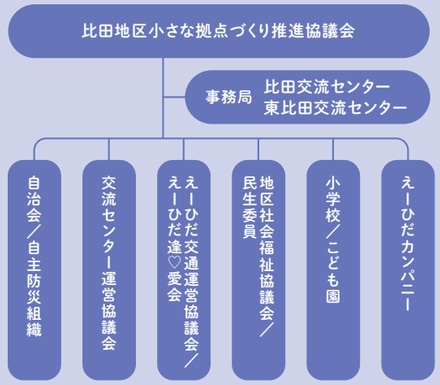
このままでは比田がなくなる!?

人口減少や商店の閉店、小中学校の統廃合などにより「このままでは比田がなくなる」という危機感を感じた地域の有志が行動を開始。役職にとらわれず地域を引っ張っている人たちに声を掛け、平成27年に「いきいき比田の里活性化プロジェクト」を立ち上げ、比田地区と東比田地区で連携した取組を始めました。「比田を未来につなげる」をテーマに、全世帯を対象としたアンケートやワークショップを実施。様々な世代からの1469個ものアイデアをもとに、88の戦略プランからなる「比田地域ビジョン」を作成しました。その後「えーひだカンパニー」を設立し、産業振興や福祉事業などに取り組んでいましたが、住民の二人に一人が高齢者になるなど年々地域の状況が厳しさを増す中で、取組のスピード感や事業を担う地域の体制が課題となっていました。

step.2 体制

地域が一体となった体制に

これまで取組の主体となっていた「えーひだカンパニー」や「えーひだ交通運営協議会」、「えーひだ逢♡愛会」に、自治会や自主防災組織、保育園や小学校のPTAなど地域の団体が加わって、令和元年12月に「比田地区小さな拠点づくり推進協議会」を設立。2地区の交流センターが事務局を担い、取組を推進していくことにしました。



step.3 計画

将来も安心して住み続けられるように

比田地域ビジョンをもとに、推進協議会で今後の取組内容を検討。“この先も住民が安心して比田に住み続けられる”ことを目指して、「地域交通支援」「高齢者生活支援」「自主防災対策の強化」「多機能拠点施設の整備」に取り組むことにしました。これまでの地域ビジョンを十分に住民へ浸透させることができていなかったこともあり、目的や内容、目指す姿を自治会などで何度も繰り返し説明して、住民との共有を図りました。

step.4 実践

想いを形に、取組をスタート

東比田地区を中心に始めていた有償運送を比田地域全域にエリア拡大するとともに、買い物等の送迎サービスも開始しました。他にも、防災研修会や小学校と協働した防災教育、自治会ごとのハザードマップづくりに着手したり、東比田地区で実施している高齢者を対象とした食事会を比田地域全域へ広げたりと、取組を進めています。また、令和3年度からは6つの部会を立ち上げ、複数の活動を計画的に進めていくための体制を強化しました。

step.5 発展

さらなる取組の充実に向かって

今後は、移動販売による買い物支援や冬期の一時居住対策、取組の拠点となる多機能施設の整備を進めていきます。

私たちのやり方
Our Project

取組 1

バス停や商店などへの移動をサポート

有償運送による地域交通支援

車の運転が難しい高齢者等の自宅からバス停までの移動手段を確保するため、東比田地区を中心に実施していた有償運送を令和3年4月から比田全域にも拡大して運行しています。あわせて、地域内の商店や金融機関等への送迎サービスも開始し、地域住民の移動を支えています。

まちのひとの声 JAや郵便局に行く時に利用しています。今までのようにバスを乗り換えることなく、目的地に送ってもらえるので助かっています。

step.1 課題

東比田地区と比田地区の一部では、安来市広域生活バス停までの移動手段の確保を目的として、え一ひだ交通運営協議会を立ち上げ、平成30年9月に自治会輸送の運行を開始（H31年4月に有償運送化）。バス停までの送迎を行っていましたが、買い物等への移動手段としてのサービス拡大が課題となっていました。一方で、比田地区では、高齢化の進行により、移動に困る方の増加が見込まれることから対策が必要となっていました。

step.2 計画

東比田地区を中心に運行していた有償運送のエリアを拡大し、両地区でバス停までの移動手段を確保することとしました。併せて利用者から送迎先としてニーズの高かった商店や金融機関等までの送迎も新たに始めています。

step.3 トライ

利用者は事前に受付窓口である交流センターに電話で予約をします。当日は自宅の前で乗車し、指定のバス停でバスに乗り換えて安来市内の病院等に出掛けたり、地区内の商店で買い物をしたりします。市の支援により、自宅からバス停までの移動は無料で、商店などへの移動は1回300円を支払います。支払いは事前に購入した利用券で行うことで、ドライバーがお金の受け渡しをしなくて良い方法にしています。開始時には、各自治会を回って説明を行い、取組の理解と利用の促進を図りました。

取組 2

子どもから大人まで住民全員で取り組む

自主防災強化支援

防災研修会の定期的な開催やハザードマップづくりなど自主防災対策の強化に取り組んでいます。防災士や次世代の担い手の育成などを進めることで人材を確保し、2つの地区で人材を共有しながら、今後も安心して住み続けられるように、助け合いの仕組みづくりを進めていきます。

まちのひとの声 子どもから大人まで多くの世代で防災について勉強することは、いざという時の備えになるのでとても大切なことだと思います。

step.1 課題

比田地区、東比田地区それぞれに自主防災組織が設立されていましたが、リーダー人材をはじめ担い手の育成、確保が進んでいませんでした。

step.2 計画

子どもから大人まで住民全体の意識を高めることで地域全体の防災力を向上させ、両地区で人材の育成、共有を図って、防災対策を強化していくことにしました。

step.3 トライ

まずは住民の自主防災への意識を変えていこうと、防災研修会を実施。子どもから大人まで多くの世代が参加しています。今後も定期的に開催しながら、自治会ごとのハザードマップ作成や避難訓練の実施などの取組を進めていきます。また、専門的人材である防災士の養成や小学生の頃から防災教育を行うなど、人材の育成も進めています。

Point 株式会社え一ひだカンパニー

平成28年8月、地域ビジョンの実現に向けて、比田地域の住民が「え一ひだカンパニー」を設立しました。その7ヶ月後には、主に地域住民が株式となって会社を法人化。生活環境の整備、産業の振興、地域の魅力向上、定住の推進の4事業を柱に様々な活動に取り組んでいます。今後も収益事業を行うことで将来に渡って持続可能な組織を目指し、比田地域の明るい未来に向かって挑戦を続けていきます。

株式会社化した主な理由

- 人が代わっても継続できる体制をつくる
- 社会的信用力を高める
- 住民が株式出資という形で地域づくりに参加できる

Interview 地区のこれからと想い

住民みんなで考えた地域ビジョンを住民自らが実践

比田地区小さな拠点づくり推進協議会 会長
川上 義則（57歳）

25年前、32歳で養父が経営するスーパーを引き継ぐため比田に移住した。その頃はまだ大きな縫製工場もありそれなりの活気はあったように思えたが、この四半世紀で人口が半減し地域が衰退していくのを目の当たりにしてきた。「まず地域の変化を住民によく知ってもらうことが必要だった。店がなくなる、学校がなくなる。人口も減る。でもここで暮らしていくにはどうすればいいのか、誰も取り残さないようにするためにはどうすればいいか、地区のみんなで考えた」という。アンケートや世代別のワークショップを行い、比田の将来目指すべき姿として「比田地域ビジョン」をつくった。そして、ビジョンを実現するため「え一ひだカンパニー」や「比田地区小さな拠点づくり推進協議会」などを立ち上げた。「とりあえず何でも自分たちでやってみる。そのためにみんなで活動する。人口が減っても持続できる循環型社会（人・モノ・自然・カネ）、お互いを支える地域を目指したい」と取組への意気込みを語る。

人のつながりを大切に、助け合いが当たりまえの地域で暮らす幸せ

え一ひだカンパニー株式会社 取締役
野尻ちさと（34歳）

比田にIターンしてすぐの冬。大雪に見舞われ車を出せなくて途方に暮れていた朝、近所の人たちが手慣れた様子で雪をかき道を開けてくれた。ハンドルを握りながら涙が止まらなかった。28歳で地域おこし協力隊として着任。比田地域ビジョンの作成に関わり、ビジョン実践のために設立された「え一ひだカンパニー」に入った。「他にもいくつか同じような課題を持つ地域を見てきましたが、比田の人たちはすごく前向きだと感じます。お年寄り世代も働き盛り世代も差がなく、みな同じ方向を見る仕掛けができている」という。カンパニーでは農業支援や農産品加工販売・流通などの事業を切り盛りし、子どもたちへのふるさと学習や地域の魅力発信にも尽力する。「私がカンパニーにいる意味は、外部の目で地域を見てやり方を考えることで、主役はやはり比田の人。その頑張りです。この小さな拠点づくりがここで暮らす人々の暮らしを支え、比田で生きる幸せにつながれば」と夢を語る。

今後の計画
Our Planning

1. 高齢者支援
- 冬期の一時居住施設の整備、移動販売の実施

2. 自主防災強化
- 防災士の養成、ハザードマップづくり、防災研修会や防災教育の実施

3. 多機能拠点施設の整備
- デマンド交通や移動販売の拠点、路線バスへの乗継場所、直売所等となる多機能拠点施設を整備